

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	NPO 法人 よるべさ	代表者	黒岩 尚文	法人・事業所の特徴	南北に 70 キロ以上ある幌加内町の中でも市街地から 30 キロ以上離れた地域にある事業所です。介護サービスが市街地に集中しており、高齢化が進んだこの地域では除雪や病院が遠いなどの事情から地域を離れるしか選択がなかったのですが住み慣れた地域で最後まで過ごしたいという思いを支えていこうと開設されました。
事業所名	スマイルホームえん	管理者	蔵前 直美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0 人	0 人	5 人	0 人	2 人	1 人	0 人	2 人	0 人	10 人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認			評価を何度も重ねることで無理、無駄などがわかり、評価をスムーズに行うことができるようになると思う。初めてにしてはしっかり出来ているのではないか。	もう少し短期間の中で全員参加できるようにする。 先に集計して意見をだしあえるようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境			入りやすい様に玄関に「ご自由にお入りください」等の張り紙があれば良いのでは。防犯上の問題もあるので文言を考える必要がある。	インターフォンの張り紙をする。(押しもらえるように) 来客のベルがなったら両方の玄関を確認する。
C. 事業所と地域のかかわり			職員が分かる人と分からない人が居る。地域以外から通っている職員が分からない。一目で職員と分かるような工夫をしてはどうか。	老人クラブや地域行事に参加する。新人を紹介する機会をつくる。よるべさ通信に紹介をだす。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み			すべてやってもらえると有難いという人もいるだろう。最初にルールを決めて明確にしてはどうか。個人で違うので地域と相談して決めたら良い。	今まで通り地域行事やイベントに参加する。 担当者会議に地域のかたも入ってもらうようにする。
E. 運営推進会議を活かした取組み			運営推進会議自体がまだよくわからない。前回、地域のネットワークの話などがでて少しわかってきた。 基礎情報（どのような利用者さんがいるなど）	地域全体の事例検討ができるようになげかける。地域の見守りネットワークを完成させる。
F. 事業所の防災・災害対策			防災計画も知らないし、訓練も参加した事がない人がほとんどだった。去年、水害の際に事業所に避難した人もいたので頼りになりそうとの感想はあった。	地域の防災訓練に参加する。 防災訓練を運営推進会議にかける。カセットコンロ式ポータブルストーブを購入する。非常用備蓄を考える。